

情報数学I				【単位数	2単位
授業コード	70000	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	増澤 利光				
時間割備考	4/12、4/26、5/10、5/24、6/14、6/21、7/12、7/26				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
<p>情報通信システムの理解とデザインに重要な役割を果たすのが、離散数学を基礎とする数学的思考法や手法である。本授業では、情報科学の学習に必要な離散数学をその基礎から学ぶことで、情報通信システムの理解とデザインに役立つ基本的な数学的思考法や手法を修得することを目的とする。授業では演習を行い、学習した離散数学を例題に対して運用することで理解を深める。授業時間外でも授業支援システムで課題を提示し自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	離散数学の学習した概念や手法について説明することができる。			知識・技能	
2	離散数学の学習した概念や手法を例題に適用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	簡単な課題に対し、離散数学の観点からモデル化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	離散的にモデル化された課題に対し、離散数学を運用して解を導出することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・授業時間内レポート（15%）			1	
2	授業時間外レポート（25%）			2/3/4	
3	中間テスト（30%）			1/2/3/4	
4	期末テスト（30%）			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基数法 2. 論理 3. 集合 4. 帰納的定義と証明 5. 数え上げ 6. 関係 7. 関数 8. 中間テストと解説 9. 整数論の基礎 10. グラフの基礎 11. 木と探索 12. グラフ問題（1）ネットワーク、最短経路、マッチング 13. グラフ問題（2）平面的グラフ、彩色問題、強連結成分 14. 有限オートマトンと正規表現 15. チューリングマシン 					

情報数学II				【単位数】	2単位
授業コード	70010	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中本 幸一				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本講義では、情報システム設計やデータ分析で利用する数学的記法について説明と道具として運用できるようになることを目指す。情報数学 I の離散数学に対して連続数学と呼ばれる。対象の記法としては、集合、数列、行列、ベクトル、確率である。数学の記法を、ものごとを「簡潔に表現するための」記法という観点から、これらの対象の具体例を実際に簡潔に表現した例を見て、逆に実際に書いてみるなどの練習を通じて運用できるようになる。授業時間外でも授業支援システムを通じて課題を提示し自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	集合、数列、行列、ベクトル、確率の記法について説明することができる。			知識・技能	
2	集合、数列、行列、ベクトル、確率を例題に適用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	簡単な課題に対し、集合、数列、行列、ベクトル、確率を使ってモデル化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・授業時間内レポート (15%)			1	
2	授業時間外レポート (25%)			2/3	
3	中間テスト (30%)			1/2/3	
4	期末テスト (30%)			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員の企業での業務経験から道具としての数式が使えるように、講義と演習を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 集合演算 3. 数列の記法 4. 典型的な数列としての等差数列、等比数列 5. シグマ 6. 漸化式 7. 中間テストと解説 8. ベクトルとその記法 9. 行列とその記法 10. 行列・ベクトルの計算 11. 人間関係と行列 12. 確率の実際 13. 確率の記法 14. 条件確率 15. ベイズ確率 <p>3~6回は「思考ツールとしての数学」の2章、8~11回は同書の3章、12~15回は同書の5章に基づき、適宜参考資料を配布する。</p>					

情報数学III				【単位数】	2単位
授業コード	70020	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	天野 憲樹				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本講義では、情報システム設計やデータ分析で利用する数学的記法について、説明と道具として運用できるようになることを目指す。情報数学Iの離散数学に対して連続数学と呼ばれる。対象の記法としては、関数、微分、積分、多変数関数、偏微分である。数学の記法を、ものごとを「簡潔に表現するための」記法という観点から、これらの対象の具体例を実際に簡潔に表現した例を見て、逆に実際に書いてみるなどの練習を通じて運用できるようになる。授業時間外でも授業支援システムを通じて課題を提示し自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	関数、微分、積分、多変数関数、偏微分の記法について説明することができる。			知識・技能	
2	関数、微分、積分、多変数関数、偏微分を例題に適用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	簡単な課題に対し、関数、微分、積分、多変数関数、偏微分を使ってモデル化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・授業時間内レポート(15%)			1	
2	授業時間外レポート(25%)			2/3	
3	中間テスト(30%)			1/2/3	
4	期末テスト(30%)			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
教員の企業での業務経験から道具としての数式が使えるように、講義と演習を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 文字・式・グラフ 連立1次不等式と線形計画法 関数の記法 関数によるモデル化 関数モデルの適用 微分の考え方 微分の記法 微分の応用 中間テストと解説 積分の考え方 積分の記法 積分の応用 多変数関数の考え方 多変数関数によるモデル化 偏微分の考え方 <p>1~2回は「思考ツールとしての数学」の1章、3~5回は同書の4章、6~12回は同書の7章、13~15回は同書の8章に基づき、適宜参考資料を配布する。</p>					

アカデミックスキル				単位数	2単位
授業コード	70030	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中本 幸一、小松 文子、陳 光輝、上林 篤幸、左近 透、吉川 隆士、天野 憲樹、河野 英太郎、前川 浩基、鈴木 優、神田 哲也、大西 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	複数/クラス分け				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>大学や社会では多様なスキルが必要とされる。本講義ではその中で、大学生・社会人に必要な伝達、表現能力を身につけることを目的とする。具体的には日常のレポートやプレゼンテーション、卒論を効果的に行うために、伝えたい内容の明確化、それを文章にするための組み立て方、読み手を考慮した文章法などを学ぶ。こうした講義と演習を通じて、効果的で正確なレポートやプレゼンテーションが行えるようになる。あわせて、プレゼンテーションの仕方、情報の集め方、アクセスの仕方を効果的に行えるようになる。なお、本講義は少人数のクラスに分けて行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	相手に伝えたい内容を正確に、論理的・効果的に文書やプレゼンテーションを通じて、相手に伝えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	インターネットやメディアを利用して、必要な情報を効率的に収集し、整理することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題(30%)			1/2	
2	最終の小論文(40%)			1/2	
3	最終のプレゼンテーション(30%)			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
実務での経験に基づき、書類やプレゼンテーション作成の仕方を説明する					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクッション 2. 主題文を書いてみる 3. 読み手を意識する 4. 大事なことは早く書く 5. 驚き最小原則 6. 読み手は先を予測しながら読んでいる 7. 事実に基づいて正確に書く 8. 読み手が同じことを再現できるように書く 9. 構成方法(既知の情報から新しい情報へ、導入・本論・展開の三部構成) 10. 構成方法(順列型と並列型、接続詞が文脈を作る、パラグラフライティング) 11. 表現方法(厳しい読み手になる、理由を補って主題の立ち位置を明確にする、全体から詳細へ) 12. 表現方法(助詞の使い方、文脈の考慮、背景説明は最短に) 13. 表現方法(時系列で語らない、曖昧な表現を避ける、修飾語と非修飾語の関係を改善する) 14. プレゼンテーションの仕方 15. 情報の集め方、整理の仕方 16. 最終プレゼンテーション 					

試験等 最終に小論文とプレゼンテーションを行う。
試験のフィードバックの方法 小論文やプレゼンテーションにフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前に教科書の該当箇所を読み、課題をやってみる（1時間程度）。 講義中に出した課題を行う（2時間程度）。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方 論文・レポートを自力で書けるようになる方法／福地 健太郎／翔泳社／1800／9784798158891／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業時に適宜指定する。
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 オフィスアワー：月曜から木曜：9時～17時まで（ただし、学内会議、講義等で不在の場合もあります） メールアドレス：toru_sakon@m.ndsu.ac.jp
留意事項

ICTリテラシ				【単位数	2単位
授業コード	70040	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	小松 文子、柳生 光義				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
現代の情報通信技術（ICT）を活用したデジタル社会の一員として、また情報技術やデータ分析技術の専門家に求められる入門レベルのツールの使用方法を学ぶ。具体的には、コンピュータとネットワークの基礎的な知識を学び、電子メール、インターネットの検索、SNS利用などの情報行動を主体的に責任をもって実施すること。さらに、文書等を作成するために必要なワープロや表計算ソフトと簡単なデータ処理について、演習を通して修得する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	デジタル社会の状況を説明できる。			知識・技能	
2	PC（パーソナルコンピュータ）の基本的な操作ができ、簡単な文書作成、表計算、プレゼンテーション資料を作成できる。			知識・技能	
3	コンピュータとネットワーク、インターネットの基本的な構成要素と仕組みを説明できる。			知識・技能	
4	電子メールやSNS（Twitter、Facebook、WhatsAppなど）を、社会的な影響を考慮しつつ活用することができる。			思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・課題（30%）			1/2/3	
2	毎回の演習課題（70%）			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員の企業や公官庁における経験から、実務に活用できる基礎的なリテラシーを修得できるよう指導します					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的、ICTを活用したデジタル社会の状況 2. コンピュータの基本的な構造、ファイルの構造、操作 3. ネットの利用（ブラウザ、メールの利用、マナー、メールソフトの設定、ネット会議の使用法） 4. 文書作成（MS Word、Googleドキュメント） 5. 表計算ソフト（MS Excel、Googleスプレッドシート） 6. プレゼンテーション（MS PowerPoint、Googleスライド） 7. 課題文書を作成（4-6回までに修得した手法を利用して課題の文書を作成する） 8. Webによる情報発信（Webの歴史、Webページ作成の基本的な知識） 9. 情報検索、調査（サーチエンジンの活用法、ネット上の情報の探し方、図書館活用法） 10. コンピュータとネットワーク（コンピュータと画像、文字、ネットワークの仕組み） 11. 情報セキュリティ（PCのセキュリティ対策、スマホのセキュリティ対策、パスワード管理、無線LANのセキュリティ対策） 12. 情報倫理とプライバシー 13. Pythonによるデータ処理 1（グラフの描画） 14. Pythonによるデータ処理 2（データファイルの読み方、データのグラフ化） 15. 情報と法律（著作権法、個人情報保護法、不正アクセス禁止法） 					

試験等 筆記試験は行わない。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業前に資料を提示しておくので、不明な点をまとめておくこと（予習0.5時間）。 毎回学んだ内容について、理解の状況を確認する課題に回答する（復習1時間）。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 [改訂第5版] 基礎からわかる情報リテラシー／森本 尚之／技術評論社／1500／9784297137656／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 aya@m.ndsu.ac.jp mitsu.yagyu@gmail.com（新年度に変更予定）
留意事項 毎回、自分のPCをすぐ利用可能な状態にしておくこと。

デジタル社会と倫理				単位数	2単位
授業コード	70050	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期
担当者氏名	小松 文子、宮内 宏				
時間割備考	8/28～30				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
デジタル社会で活躍するための、情報倫理と、社会規範となる法律について学ぶ。データ・情報を扱う場合やインターネットを利用する場合には、プライバシーや著作権などの情報倫理・規範を考慮しなければならない。また法制度は正しく理解する必要がある。本講義では、デジタル社会の特徴を知ったうえで、必要な倫理行動ができることを目的に、事例法、係争例を交えながら理解を深める。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	デジタル社会の特長を説明することができる。			知識・技能	
2	情報セキュリティの基本的な概念と構成要素を説明できる。			知識・技能	
3	デジタル社会の倫理として社会的規範や法制度を説明できる。			知識・技能	
4	自らの行動を倫理や法制度の観点からその是非を説明することができる。			思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・課題・小テスト (80%)			1/2/3	
2	課題発表 (20%)			4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
教員の情報産業や公的機関における経験から、より実際に即した知識を修得できる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回～第8回までは集中講義。					
1. イントロダクション（講義の目的）（小松）法律と倫理（刑法を中心に、倫理と対比して法律の考え方を示す。名誉毀損等にも触れる）（宮内）					
2. 通信と法律（通信の秘密、通信と放送の融合、プロバイダ責任制限法等）（宮内）					
3. プラットフォーム事業者（Yahoo、Googleなど）と独占禁止法、媒介者責任（偽情報対策、権利侵害対策 にも触れたい）（宮内）					
4. プライバシーと個人情報保護1（プライバシーの法的位置付け、個人情報保護法1）（宮内）					
5. プライバシーと個人情報保護2（個人情報保護法2、マイナンバー制度）（宮内）					
6. 情報漏えいと係争例、情報発信と法的責任、迷惑メール規制（宮内）					
7. 知的財産保護1（知的財産権の概要、著作権1）（宮内）					
8. 知的財産保護2（著作権2、不正競争防止法）（宮内）					
9. 情報倫理、情報市場を学ぶ理由（小松）					
10. 情報と工学倫理1（情報社会における個人・企業・社会の倫理）（小松）					
11. 情報と工学倫理2（事故とヒューマンエラー、製品事故と製造物責任）（小松）					
12. 情報と工学倫理3（企業不祥事と技術者の行動）（小松）					
13. 情報と工学倫理4（情報セキュリティの脅威と対策）（小松）					
14. 情報社会1（デジタルエコノミー、シェアリングエコノミー、Web3.0）（小松）					
15. デジタル情報と法律（インターネットの特徴、匿名性、表現の自由）（小松）					

<p>試験等 行わない。毎回課題を出題する。集中講義においては小テストを実施する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 前回の課題及び小テストについて、正解を紹介、または討議の時間を設ける。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業前に資料を提示しておくので、不明な点をまとめておくこと（予習0.5時間）。 毎回学んだ内容について、理解の状況を確認する課題に回答する（復習1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 情報法入門 第6版 デジタル・ネットワーク／小向 太郎 著／NTT出版／3000／9784757104020／冊子版</p>
<p>「判例六法 令和6年版」「佐伯仁志他編」「有斐閣」「3400円」（税抜き） 「978-4-641-00344-6」「冊子版」 毎回資料を配布する。</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>オフィスアワー 授業開始時に通知する。</p>
<p>連絡先 aya@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 第1回から第8回までは、集中講義で実施する。 第1回から第8回までは、必携書記載の「判例六法」を持参すること。 集中講義では、課題に代えて講義中に小テストを実施する。</p>

プログラミング入門I [a]		【単位数】		2単位	
授業コード	70060	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	河野 英太郎				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	クラス分け				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>道具としてコンピュータを使いこなすためには、プログラミングは必要不可欠であり、プログラミングの修得はデジタル社会で活躍するための重要な基本技術となる。文字のみで構成されるプログラミング言語を用いた場合、プログラミング未経験者にとって、エラーを生じやすくさせるため、理解を妨げるものになりやすい。本授業では、プログラミング未経験者でも容易に扱える一種の図形プログラミング言語を使ってプログラミングの構成方法を学ぶ。具体的には、プログラムの各処理が順次処理、分岐処理、反復処理で構成されること、また処理の途中結果を保存する変数の使い方を学ぶ。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	プログラミングの基本的な考え方を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プログラミングを用いて簡単な処理を実行できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	ツールとしてのプログラミングの可能性を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小レポート(演習) (20%)			1/3	
2	小課題 (30%)			2	
3	最終課題 (50%)			2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Scratchの使い方 2. 順次処理とは 3. 順次処理の実践 4. 順次処理の課題 5. 分岐処理とは 6. 分岐処理の実践 7. 分岐処理の課題 8. 反復処理とは 9. 反復処理の実践 10. 反復処理の課題 11. ファイル処理 12. 四則演算 13. 最終課題設計 14. 最終課題制作 15. 最終課題レビュー 					

試験等 最終課題を課す。
試験のフィードバックの方法 授業サポートシステム等を通じてフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習（60分）：各回の授業終了時に提示される次回授業内容を講義資料や書籍などで予習し、疑問点などを整理しておく。 復習（120分）：授業中に提示される課題に取り組み、期限までに授業サポートシステム等を通じて提出する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 【改訂第2版】Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本／中植正剛／著 太田和志／著 鴨谷真知子／著／日経BPマーケティング／2300／9784822286170／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 授業開始時に通知する。
留意事項

プログラミング入門I [b]		【単位数】		2単位	
授業コード	70065	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	河野 英太郎				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	クラス分け				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>道具としてコンピュータを使いこなすためには、プログラミングは必要不可欠であり、プログラミングの修得はデジタル社会で活躍するための重要な基本技術となる。文字のみで構成されるプログラミング言語を用いた場合、プログラミング未経験者にとって、エラーを生じやすくさせるため、理解を妨げるものになりやすい。本授業では、プログラミング未経験者でも容易に扱える一種の図形プログラミング言語を使ってプログラミングの構成方法を学ぶ。具体的には、プログラムの各処理が順次処理、分岐処理、反復処理で構成されること、また処理の途中結果を保存する変数の使い方を学ぶ。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	プログラミングの基本的な考え方を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プログラミングを用いて簡単な処理を実行できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	ツールとしてのプログラミングの可能性を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小レポート(演習) (20%)			1/3	
2	小課題 (30%)			2	
3	最終課題 (50%)			2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Scratchの使い方 2. 順次処理とは 3. 順次処理の実践 4. 順次処理の課題 5. 分岐処理とは 6. 分岐処理の実践 7. 分岐処理の課題 8. 反復処理とは 9. 反復処理の実践 10. 反復処理の課題 11. ファイル処理 12. 四則演算 13. 最終課題設計 14. 最終課題制作 15. 最終課題レビュー 					

試験等 最終課題を課す。
試験のフィードバックの方法 授業サポートシステム等を通じてフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習（60分）：各回の授業終了時に提示される次回授業内容を講義資料や書籍などで予習し、疑問点などを整理しておく。 復習（120分）：授業中に提示される課題に取り組み、期限までに授業サポートシステムを通じて提出する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 【改訂第2版】Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本／中植正剛／著 太田和志／著 鴨谷真知子／著／日経BPマーケティング／2300／9784822286170／冊子版
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 授業開始時に通知する。
留意事項

プログラミング入門II				【単位数】	2単位
授業コード	70070	科目ナンバリング	390A0-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	鈴木 優				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>道具としてコンピュータを使いこなすためにはプログラミングは必要不可欠であり、プログラミングの修得はデジタル社会で活躍するための重要な礎となる。本授業では、プログラミング初学者でも容易に扱えるビジュアルデザインのためのプログラミング言語を使用したコンピュータグラフィックス(CG)の制作を通じて、プログラミングの基本的な考え方や文法などの基礎的な内容を学ぶ。この学びを通じてデザイン分野やデータ分析分野等における道具としてのプログラミングの可能性を正しく理解することを目指す。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	プログラミングの基本的な考え方を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	プログラミングを用いて簡単なCGを制作できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	ツールとしてのプログラミングの可能性を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小レポート(20%)			1/3	
2	小課題(30%)			2	
3	最終課題(50%)			2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとプログラミング 2. 順次処理とは 3. 順次処理の実践 4. 順次処理の課題 5. 分岐処理とは 6. 分岐処理の実践 7. 分岐処理の課題 8. 反復処理とは 9. 反復処理の実践 10. 反復処理の課題 11. 表現の拡張 12. インタラクションの導入 13. 最終課題設計 14. 最終課題制作 15. 最終課題レビュー 					

試験等 最終課題を課す。
試験のフィードバックの方法 授業サポートシステム等を通じてフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習（60分）：各回の授業終了時に提示される次回授業内容を講義資料や書籍などで予習し、疑問点などを整理する。 復習（120分）：授業中に提示される課題に取り組み、期限までに授業サポートシステム等を通じて提出する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義資料は授業サポートシステム等を通じて毎回配布する。
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 授業開始時に通知する。
留意事項

プログラミング演習 [a]		【単位数】	2単位
授業コード	70080	科目ナンバリング	390A0-1000-o2
開講年度学期	2024年度第2期		
担当者氏名	河野 英太郎、鈴木 優		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
アプリケーションプログラムやデータ解析などで、現在利用が広がっているプログラミング言語であるPythonの初歩を演習する。範囲は変数とデータ型、if文、while文などの制御構造とそのもとになる条件判定の仕方、配列、リスト、タプル、辞書などPythonで多用されるデータ構造、関数の作成方法と関数呼出しまでである。目標として基本情報処理技術者Pythonプログラミングのうちオブジェクト指向を除く範囲をカバーする。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	プログラミング言語Pythonの文法に関して概要を説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	プログラミング言語Pythonの基本的な制御構造、データ構造の利用方法などに関する技術を説明できる。		知識・技能
3	プログラミング言語Pythonのライブラリを用いて簡単なプログラムを実装できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	講義後課題 (70%)		1/2
2	3回の演習課題 (30%)		1/2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、プログラミング環境のインストール、簡単なプログラムの実行 2. 変数、数値と四則演算 3. データ型、文字列型 4. 制御構造とは、流れを変えるきっかけ(if文)、条件判断 5. 繰り返し制御(for, while文) 6. 演習1(制御構造) 7. 文字列、文字列の操作 8. リストとその扱い方 9. 二次元のリストとリストの操作 10. タプル 11. 辞書 12. 集合 13. 演習2(データ構造) 14. 関数の定義 15. 演習3(総合演習) 			

<p>試験等 筆記試験は実施しないが、演習課題、課題レポートを出題する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 模範解答を授業サポートシステムなどを通じて掲載する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回講義時に出した課題に回答する（復習、約2時間）。 毎回の授業前にテキストの該当箇所を提示しておくので、不明な点をまとめておくこと（約1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 新・標準プログラマーズライブラリ 試してわかる Python [基礎] 入門／谷尻 かおり／技術評論社／2680／9784297125004／冊子版</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 実践力を身につけるPythonの教科書／クジラ飛行机／マイナビ出版／2580／9784839960247／冊子版 基本情報技術者 らくらく突破 Python／矢沢 久雄／技術評論社／2400／9784297122799／冊子版</p>
<p>オフィスアワー 授業開始時に通知する。</p>
<p>連絡先 授業開始時に通知する。</p>
<p>留意事項 「プログラミング入門Ⅰ」または「プログラミング入門Ⅱ」を履修、あるいは同等の初歩的なプログラミングの経験を有すること。 クラスを2つに分けて実施する。</p>

プログラミング演習 [b]		【単位数】	2単位
授業コード	70085	科目ナンバリング	390A0-1000-o2
開講年度学期	2024年度第2期		
担当者氏名	河野 英太郎、鈴木 優		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
アプリケーションプログラムやデータ解析などで、現在利用が広がっているプログラミング言語であるPythonの初歩を演習する。範囲は変数とデータ型、if文、while文などの制御構造とそのもとになる条件判定の仕方、配列、リスト、タプル、辞書などPythonで多用されるデータ構造、関数の作成方法と関数呼出しまでである。目標として基本情報処理技術者Pythonプログラミングのうちオブジェクト指向を除く範囲をカバーする。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	プログラミング言語Pythonの文法に関して概要を説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	プログラミング言語Pythonの基本的な制御構造、データ構造の利用方法などに関する技術を説明できる。		知識・技能
3	プログラミング言語Pythonのライブラリを用いて簡単なプログラムを実装できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	講義後課題 (70%)		1/2
2	3回の演習課題 (30%)		1/2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、プログラミング環境のインストール、簡単なプログラムの実行 変数、数値と四則演算 データ型、文字列型 制御構造とは、流れを変えるきっかけ(if文)、条件判断 繰り返し制御(for, while文) 演習1(制御構造) 文字列、文字列の操作 リストとその扱い方 二次元のリストとリストの操作 タプル 辞書 集合 演習2(データ構造) 関数の定義 演習3(総合演習) 			

<p>試験等 筆記試験は実施しないが、演習課題、課題レポートを出題する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 模範解答を授業サポートシステムなどを通じて掲載する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回講義時に出した課題に回答する（復習、約2時間）。 毎回の授業前にテキストの該当箇所を提示しておくので、不明な点をまとめておくこと（約1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 新・標準プログラマーズライブラリ 試してわかる Python [基礎] 入門／谷尻 かおり／技術評論社／2680／9784297125004／冊子版</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考 実践力を身につけるPythonの教科書／クジラ飛行機／マイナビ出版／2580／9784839960247／冊子版 基本情報技術者 らくらく突破 Python／矢沢 久雄／技術評論社／2400／9784297122799／冊子版</p>
<p>オフィスアワー 授業開始時に通知する。</p>
<p>連絡先 授業開始時に通知する。</p>
<p>留意事項 「プログラミング入門Ⅰ」または「プログラミング入門Ⅱ」を履修、あるいは同等の初歩的なプログラミングの経験を有すること。 クラスを2つに分けて実施する。クラスを2つに分けて実施する。</p>

情報システム入門		単位数		2単位	
授業コード	71000	科目ナンバリング	390B1-1000-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中本 幸一、小松 文子、増澤 利光、吉川 隆士、天野 憲樹、河野 英太郎、鈴木 優、神田 哲也、大西 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>情報システムの全体像を俯瞰する。大きく3つの分野に分かれる。1) 情報システムの構成要素であるソフトウェア、コンピュータアーキテクチャ、インターネット、セキュリティ、データベース、クラウドの機能と役割、2) システム構築に必要なアルゴリズム、ソフトウェア工学、3) 利用者視点で情報システムを効率的・効果的に利用するための教育支援システム、エンターテインメントコンピューティング、インタラクションデザインなどの諸技術の概要を学ぶ。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	情報システムの全体像と要素技術の概要を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	システム構築に必要な技術を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	利用者視点で情報システムを効率的・効果的に利用するための諸技術を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時間レポート (70%)			1/2/3	
2	期末レポート (30%)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
企業や公共機関での業務経験を持つ担当教員は、自己の経験をベースにした講義を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>情報システムに関連する講義の概要を紹介し、全体像を俯瞰する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 全体像 (中本) システムソフトウェア (中本) コンピュータネットワーク (河野) インターネットシステム (河野) コンピュータアーキテクチャ、クラウド (吉川) 情報セキュリティ (小松) データベース (大西) 情報検索 (大西) アルゴリズム (増澤) ソフトウェア工学 (神田) ソフトウェアデザイン (神田) 教育支援システム論 (天野) エンターテインメント・コンピューティング (天野) ジェネラティブデザイン、フィジカルデザイン (鈴木) インタラクションデザイン (鈴木) 					

<p>試験等 毎回授業後のレポートと期末レポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 授業時間外レポートについては、提出期限後に、学内教育システムを通じて模範解答と全体的な総評を伝える。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業前に資料を提示しておくので、不明な点をまとめておくこと（約1時間）。 毎回学んだ内容について、授業中出した課題に回答する（復習、約2時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業開始時に通知する。</p>
<p>連絡先 授業開始時に通知する。</p>
<p>留意事項 本講義は情報システム系とその応用領域の講義の入門となる講義である。</p>

データ解析入門		【単位数】		2単位	
授業コード	71500	科目ナンバリング	390B2-1000-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中本 幸一、陳 光輝、上林 篤幸、左近 透、吉川 隆士、前川 浩基				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
データ解析の全体像を俯瞰する。データの収集や扱い方、統計学から始まり、回帰分析、多変量解析、重回帰分析、時系列分析、因果推論など各種データ分析手法がどのような手法で何ができるかを学ぶ。また、データ解析は対象データ毎に特徴があることから、いくつかのマーケティングデータ、企業データ、画像データ、地図情報データなどで典型的に利用されている場面や利用方法を紹介する。さらに、これらの社会での利用を理解するための経済学、経営学の入門を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	データ分析の各種手法の概要を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	社会や企業でのデータの利用、経済学・経営学等の周辺領域を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時間レポート(70%)			1/2	
2	期末レポート(30%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
企業や公共機関での業務経験を持つ担当教員は、自己の経験をベースにした講義を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクダクシヨン(データ分析の科目の概要)(中本幸一) 2. 統計の役割(確率、データ収集、統計的推定・検定の具体的な方法)(左近透) 3. 統計の役割(統計的推定、検定、回帰モデル)(左近透) 4. データハンドリング(陳光輝) 5. データマイニング(左近透) 6. 多変量解析(上林篤幸) 7. 時系列データ解析(前川浩基) 8. 計量経済分析(陳光輝) 9. 機械学習(吉川隆士) 10. 統計的因果推論(陳光輝) 11. 社会データの利用(上林篤幸) 12. 企業データの利用(前川浩基) 13. ミクロ経済(上林篤幸) 14. マーケティング論(前川浩基) 15. 地図情報システム(陳光輝) 					

試験等 毎回授業後のレポートと期末レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法 授業時間外レポートについては、提出期限後に、学内教育システムを通じて模範解答と全体的な総評を伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業前に資料を提示しておくので、不明な点をまとめておくこと（約1時間） 毎回学んだ内容について、授業中出した課題に回答する（復習、約2時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない。プリントを配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない。プリントを配布する。
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 講義時に紹介する
留意事項 本講義はデータ系とその応用領域の講義の入門となる講義である。

統計学I				単位数	2単位
授業コード	71510	科目ナンバリング	390B2-1000-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	左近 透				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>統計学は、あるデータの集まりがもつ規則性や法則性を見出したり検証したりするためのさまざまな方法や考え方からなる体系である。この体系を理解し、さまざまな種類のデータの集まりを正しく取り扱い、適切に分析し、それにもとづき検証・議論できること、逆に、また正しくない使い方や検証を見抜くことは、今後、ますます進むと言われているデータ活用を中心としたSociety 5.0やデジタルトランスフォーメーションにおける必須能力となる。また、これは、人文、社会科学のアカデミックな分野においても同様である。本講義では、能力として目指す水準として、具体的に、統計検定3級程度、すなわちデータ分析の手法を身につけ、身近な問題に生かす力をつけること目標とする。本講義では、まず、データを省察するための視覚化および確率の基礎と役割を講述する。データ収集のデザインと統計的推定・検定の具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知る。人文・社会科学の実例を豊富に用いて理解を深める。統計学は様々な現象を理解する一つの視点を与える。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	データの特徴を洞察し、適切な表示方法を選択できる。また逆に表示方法からデータの特徴を理解する能力をもつ。			知識・技能	
2	基本的なデータ分析手法について理解し、分散、相関、回帰について適切な利用と結果の判断ができる。			知識・技能	
3	確率の基礎を理解する。			知識・技能	
4	データの収集から処理とそこから導かれる結論と検証についての一連の手順を理解する。			知識・技能	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・授業時間内レポート (15%)			1/2/3/4	
2	授業時間外レポート (25%)			1/2/3/4	
3	中間テスト (30%)			1/2	
4	期末テスト (30%)			3/4	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> イントロダクションと利用するツールについての基礎 統計学についての概観を示すとともに、使用するツール(Excel?Google Doc?)について最低限の知識を獲得する。(宿題としてツールに習熟するための課題を行う) データ種類とグラフ表現 データの種類と適切なグラフ表現について理解する。 量的変数の要約方法 表現方法を通じて分布とその特徴について理解する。 一変数データ分析 平均、中央値、分散など基本的な分析に使われる尺度について理解する。また、これらを正しく利用、解釈するために必要なデータの分布についても理解する。 二変数データ分析 二変数データについて、変数間の関係を図、表や数式を用いて表現できる。また、二変数間の相関について理解し、相関関係を正しく理解し用いることができる。 回帰 回帰分析の基本的な考え方を直線回帰によって学習し、説明/非説明変数や回帰係数の導出に必要な手法を理解し、回帰推定を使うことができる。 中間テストと解説 確率(1)基礎 確率についての基本的な考え方と事象の独立性について理解する。 確率(2)条件付き確率とベイズの定理 条件付き確率について意味と性質を理解し、日常現象について確率的解釈をできるようにする。あわせてベイズ定理と偽陽性・偽陰性についても正しく理解する。 確率(3)確率変数と確率分布(1)確率分布関数 確率変数と確率分布の考え方と関係を理解する。 確率(4)確率変数と確率分布(2)二項分布、正規分布 統計学において特に重要である二項分布および正規分布についてそれらの特徴を理解し、確率計算ができる。 統計的問題解決におけるデータの取り方(1) 統計的問題解決プロセスを理解し、実験と観察によるデータ収集法を理解し実施できる。 統計的問題解決におけるデータの取り方(2) 調査計画の立案について理解し、調査によるデータ収集法を理解し実施できる。 統計的推測 統計的推測の基本的考え方を理解し、区間推定について理解し理解する。 統計的仮説検定 統計的推測における仮説検定について理解し実施できる。 					

Intensive English				【単位数	2単位
授業コード	73070	科目ナンバリング	390B5-1000-o2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	末弘 美樹、Lukminaitė-Anand Simona、Anand Sanchit				
時間割備考	9/2~13				
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	複数/クラス分け				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
総合的に英語の4技能を伸ばすための、英語集中強化コースです。留学に求められるTOEFL・IELTS・TOEICなどの英語能力試験のスコアアップを目指すとともに、特に日本人学生が苦手とするSpeaking力を伸ばすことを目標に置いています。そのため、上級・準上級・中級(Advanced、High Intermediate、Intermediate)という習熟度別クラスに分け、必修英語科目では十分カバーしきれない部分を補いながら、目的に見合ったスキルをさらに伸ばせるよう少人数定員編成で実施します。グローバル時代に必要とされる英語のスキルをそれぞれの目的に合わせて積み上げていけるようなプログラムになっているため、このプログラムを利用して十分な英語力を十分に身につけることができると考えています。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	英語4技能(Listening, Speaking, Reading, Writing)を総合的に伸ばす			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	TOEIC・IELTS・TOEFLなどの検定試験でのスコアアップを目指す			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	特に日本人学生が苦手とするSpeaking力をつける			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内の積極的な授業参加度30%			1/2/3	
2	課題への取り組み30%			1/2/3	
3	最終試験40%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 推論問題-攻略法とサンプルスタディ/トピック: 海外勤務 3. 内容一致問題とサンプルスタディ/トピック: 職場文化 4. 推論問題とサンプルスタディ/トピック: 記憶 5. 筆者の意図を問う問題とサンプルスタディ/トピック: ナルシズム 6. 語彙問題とサンプルスタディ/トピック: 健康食品 7. 指示語問題とサンプルスタディ/トピック: 流暢なスピーキングのためのフィラー 8. 中間試験と評価および練習問題/トピック: 育児休暇 9. 言い換え問題とサンプルスタディ/トピック: ミニマリズム 10. 文章挿入問題とサンプル学習/トピック: フェミニズム 11. 要約問題とサンプルスタディ/トピック: 汚職 12. 表完成問題とサンプルスタディ/トピック: 時間厳守 13. ETS 練習問題 1/トピック: ネットワーク 14. ETS 練習問題 2/トピック: 成人式 15. ETS 練習問題 3/トピック: 高級食料品 16. 最終試験 					

試験等 実施予定(別途周知する)
試験のフィードバックの方法 全ての評価が終わった段階で、manabaを通じて適宜課題の内容に触れながら、全体的な総評を伝えます。
準備学習(予習・復習)に必要な学修内容・時間 (予習) 毎回出された予習課題をする。(各回約30分) (復習) 学習した内容の復習テストを受ける(各回約10分)。学習者の能力は個々に異なるため、各クラスで個々に与えられたフィードバックを各自が確認し、能力向上のために必要な復習を個々に行う(60分)。
必携書(教科書販売) 書籍名/著者/発売元出版社/価格/ISBN/媒体種別・備考
eP textbook (set of two books) and audio, eigoPaathshala® (2019). なお、I A, II Aと一貫して使用する。
必携書・参考書(教科書販売以外) 書籍名/著者/発売元出版社/価格/ISBN/媒体種別・備考
ETS The Official Guide to the TOEFL Test (Fifth Edition) McGraw-Hill Education (2017). その他の参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。
オフィスアワー 授業開始時に通知する。
連絡先 授業開始時に通知する。
留意事項 課題の締め切りは守ること。

Practical English [a]				【単位数】	2単位
授業コード	73090	科目ナンバリング	390B5-1000-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	Lukminaitė-Anand Simona				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
コミュニケーション能力の育成に重点を置きながら、4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を育成する授業である。学生は、様々な実用的なテーマを探求していきます。グループディスカッションやライティング課題を通して、多文化を比較し、自分自身の経験を分析します。各トピックの理解を深めるために、時事的なメディアソースを課題として扱います。事前にトピックを調べ、自分なりの考察や引用・画像などの補助資料を持参することが求められます。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	様々なジャンルや話題の英語を聞いて/読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	複数の領域を統合した言語活動を遂行することができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	チームワークができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	クイズ: 24% (12回x2)			1/2/3/4/5	
2	発表: 16%			1/2/3/4/5	
3	最終テスト: 40%			1/2/3/4/5	
4	レポート課題: 20% (400単語以上のレポート提出)			1/2/3/4/5	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション ユニット1: 「子育て」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 1: クイズ。ユニット 2: 「スポーツ」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 2: クイズ。ユニット3: 「受験」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 3: クイズ。ユニット 4: 「音楽」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 4: クイズ。ユニット5: 「レストラン」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 5: クイズ。ユニット 6: 「学校」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 6: クイズ。ユニット7: 「運動」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 7: クイズ。ユニット 8: 「旅行」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 8: クイズ。ユニット9: 「ショッピング」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 7: クイズ。ユニット 8: 「朝食」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 10: クイズ。ユニット11: 「会話」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 11: クイズ。ユニット 12: 「インターンシップ」。ライティング課題とグループディスカッションをします) ユニット 12: クイズ。グループ発表。 最終テストに向けた復習。レポート課題の手伝い、個別カウンセリング 					

試験等
レポート提出
試験のフィードバックの方法
授業開始時に周知する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
1週間につき2時間程度（宿題、復習）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Tsubomi 2, (Anand, S. 著, eP出版)
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
English Grammar in Use (Murphy R. 著, Cambridge University Press出版).
オフィスアワー
金曜日、12:15 - 12:30
連絡先
授業時に周知する
留意事項

Practical English [b]				【単位数】	2単位
授業コード	73095	科目ナンバリング	390B5-1000-o2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	Lukminaita-Anand Simona				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
コミュニケーション能力の育成に重点を置きながら、4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を育成する授業である。学生は、様々な実用的なテーマを探求していきます。グループディスカッションやライティング課題を通して、多文化を比較し、自分自身の経験を分析します。各トピックの理解を深めるために、時事的なメディアソースを課題として扱います。事前にトピックを調べ、自分なりの考察や引用・画像などの補助資料を持参することが求められます。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	様々なジャンルや話題の英語を聞いて/読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	複数の領域を統合した言語活動を遂行することができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	チームワークができること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	クイズ: 24% (12回x2)			1/2/3/4/5	
2	発表: 16%			1/2/3/4/5	
3	最終テスト: 40%			1/2/3/4/5	
4	レポート課題: 20% (400単語以上のレポート提出)			1/2/3/4/5	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション ユニット1: 「子育て」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 1: クイズ。ユニット 2: 「スポーツ」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 2: クイズ。ユニット3: 「受験」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 3: クイズ。ユニット 4: 「音楽」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 4: クイズ。ユニット5: 「レストラン」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 5: クイズ。ユニット 6: 「学校」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 6: クイズ。ユニット7: 「運動」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 7: クイズ。ユニット 8: 「旅行」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 8: クイズ。ユニット9: 「ショッピング」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 7: クイズ。ユニット 8: 「朝食」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 10: クイズ。ユニット11: 「会話」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします ユニット 11: クイズ。ユニット 12: 「インターンシップ」。ライティング課題とグループディスカッションをします ユニット 12: クイズ。グループ発表。 最終テストに向けた復習。レポート課題の手伝い、個別カウンセリング 					

試験等
レポート提出
試験のフィードバックの方法
授業開始時に周知する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
1週間につき2時間程度（宿題、復習）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Tsubomi 2, (Anand, S. 著, eP出版)
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
English Grammar in Use (Murphy R. 著, Cambridge University Press出版).
オフィスアワー
金曜日、14:30 - 14:45
連絡先
授業時に周知する
留意事項